

授業科目名： 人権教育論（初等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石川結加 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ： 1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。 2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。 3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。 4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを体得する。			
授業の概要： 国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを解説する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえ、国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について説明する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングの視点を踏まえた参加型学習法を採用する。			
授業計画 第1回：人権を国際的視点から考える 法務省ホームページYouTube『国際連合創設70周年記念 全ての人々の幸せを願って～国際的視点から考える人権～』視聴 第2回：国際人権教育 国際人権規約、国際人権条約、国際人権教育関連宣言や行動計画、実施の歴史的経緯、実施関連機関のメカニズム、実践事例等。 第3回：国内の人権教育 国内の法制度、基本計画、調査研究会議、指導法等の在り方に関する取りまとめ、地方自治体の取組み、学校の実践事例等。 第4回：いじめと自殺 「いじめ防止対策推進法」、いじめを認めない学級・学校経営、「自殺対策基本法」、安全に安心して学習できる環境作りの実践等。 第5回：子どもへの暴力 児童虐待の実態、「児童虐待防止法」、被害者の支援体制、児童虐待の予防対策、児童のエンパワメント実践事例等。 第6回：部落問題教育 部落問題教育（同和教育）の歴史的背景、実践事例、地域連携、国際人権教育との整合性、部落問題関連法、実態・意識調査、最近の差別事象等。 第7回：インクルーシブ教育 歴史的背景、「障がい者権利条約」、国内の法整備、合理的配慮、支援教育の実践、介護等体験の意義等。 第8回：LGBTの視点を含めたジェンダー平等教育 ジェンダーの定義、LGBTについて、性的役割分業論、「女性差別撤廃条約」、国内法制度等。 第9回：多文化共生教育 世論調査、外国人住民調査、「ヘイトスピーチ解消法」、異文化交流、地域連携、自尊感情の育成、多様性の尊重、実践事例等。 第10回：ハンセン病問題 歴史と現在、3つの法律、01年「ハンセン病補償法」、09年「ハンセン病問題基本法」、08年に政府が提案し、採択された国連決議等。 第11回：アイヌ民族 歴史、「アイヌ新法」、二風谷ダム裁判、先住民族の権利、偏見や差別、貧困、アイデンティティの問題等。 第12回：公害教育 歴史、裁判、法制度、対話、和解、公害を出さない街づくりの実践事例等。 第13回：開発教育 国際理解、世界経済、国際協力、「世界がもし100人の村だったら」ワーク等。 第14回：芸術教育 グローバル化時代を生きるために必要とされる、創造性、想像力、コミュニケーション能力、チームワーク等の社会的能力・スキルを育成するための教育理論、実践事例等。 第15回：アクティブラーニング 歴史的背景と手法の内容。			
テキスト：『人権教育と市民力 「生きる力」をデザインする』平沢安政編著 解放出版社			
学生に対する評価：課題提出（2課題）及び最終課題（小論文）提出			